

CALCON 2002 に参加して

第 57 回カロリメトリー会議 (57th Calorimetry Conference, CALCON 2002) が 8 月 11 日から 16 日の日程でアメリカ、ニュージャージーの Rutgers 大学を会場として開催されました。

参加者は 8 カ国から 76 名、発表件数は 58 件でした。例年と比べて参加者・発表件数とも少なかったため、16 日のお昼まで予定されていた会議が短縮になり、15 日の夜で全日程が終了しました。我が国から 7 名の参加がありました。センターからは稲葉先生、齋藤先生と D1 の池内が参加しました。会議は受賞講演 (2 件)、全体講演、招待講演、一般講演で構成されていました。発表形式は口頭とポスターがありました。

私は、今回 CALCON に参加するために、生まれて初めて外国に行きました。しかも、口頭発表をするので、出発前にかなり不安な思いをしました。日本から会場まで行く間とても緊張していましたが、たどたどしい英語を使いながら何とか無事にたどり着きました。会議中は、時差と過度な緊張が重なって非常に眠い状態がずっと続きました。会場の Rutgers 大学周辺はとてものどかな雰囲気の中で、ニューヨークまで電車で一時間以内で行けるとは信じられませんでした。会議は日本のように時間に追われるような雰囲気はなくのんびりと進行していたような気がします。私の発表は、日本で数多く練習していった甲斐がありスムーズにできたと思います。発表後の質問は、OHP と "Broken English" でなんとか答えられたような気がします。しかし、普段から英語で会話する機会が少なかった上、私自身が初対面の人に対して人見知りをする性格なので、多くの人とコミュニケーションを取ることが出来ず非常に歯がゆい思いをしました。CALCON では、優秀な学生に贈られる賞 (William F. Giaque Travel Awards) があります。次回はこの賞が取れるように研究に励みたいと思います。

今回のアメリカ滞在を通して、旅をする上では片言の英語で何とかりましたが、コミュニケーションを取るには英語のレベルを "a little" 状態から抜け出さないといけないことを痛感しました。

(池内賢朗)

